



2013年12月13日

各位

会社名  **日医工株式会社**
(証券コード 4541 東証一部)
代表者名 代表取締役社長 田村 友一
お問合せ先 社長室長 東 満之
TEL 076-442-7026

当社とアステラス製薬グループ間における富士工場の事業の承継に関する最終合意のお知らせ

当社は、2013年9月27日付け「アステラス製薬グループの富士工場の事業の承継に関する基本合意書締結のお知らせ」にて発表の通り、アステラスグループの日本の生産子会社であるアステラスファーマテック株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:清水隆司、以下「アステラスファーマテック」)の富士工場(静岡県富士市)の事業を、2014年4月1日に会社分割方式により承継を行うことに関し、アステラスファーマテックと本日、最終的な合意書を締結致しましたのでお知らせ致します。

記

1. 富士工場の事業の承継目的と今後の予定

本年4月に厚生労働省より公表された「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」には、2018年3月末までにジェネリックの数量シェアを60%以上にする新目標が明記されており、更なる需要増加に対する安定供給の取り組み、品質への信頼性と情報提供の向上が必要となっており、今回の事業の承継は、高いシナジー効果が期待できると判断し、最終合意書を締結致しました。

期待できる高いシナジー効果とは、次のようなものです。

- (1) 生産能力アップによる安定供給の確保
- (2) 大規模な生産設備を有する工場の特徴を活かした当社製品のスケールアップと内製化など、生産効率の向上によるコストダウンの推進
- (3) アステラスグループ内で培われた高い品質管理能力・技術力の融合
- (4) 生産拠点の分散化によるリスクマネジメント強化

一方、アステラス製薬においては、急速に変化する事業環境に対応し、持続的な成長を実現するために、生産・技術面における自社機能強化と共に「高品質な医薬品の安定供給」を効率的に行える外部パートナーへの製造委託による「変化に強い生産体制」の確立を進めていますが、品質・技術に対する基本的な考えが一致している日医工のもとで、富士工場とのシナジー効果が発揮され、将来の成長に向けた高品質かつより効率的な製造委託体制が確立されるものと期待されます。

2. 事業の承継方法

本日の最終合意成立により、今後、アステラスファーマテックの完全子会社を設立し、2014年4月1日付で、吸収分割により富士工場の事業を新会社に承継させた上で、アステラスファーマテックが保有する新会社の全株式を日医工が譲り受けます。

事業の承継に当たっては富士工場の従業員が新会社に移籍し、現在製造しているアステラス製品を引き続き受託製造するとともに、シナジー効果を活かした生産体制を確立することができます。

3. 事業の承継日程

2013年12月13日 最終合意書締結
2014年4月1日 事業の承継完了(予定)

4. アステラスファーマテック及び富士工場の概要

・アステラスファーマテック株式会社

本社:東京都中央区日本橋本町2-5-1

代表者:代表取締役社長 清水 隆司

資本金:1億円

事業内容:国内向け医療用医薬品・原薬の受託製造、海外向け医療用医薬品・原薬の受託製造
治験用医薬品・原薬の受託製造、開発用原薬の受託製造

従業員数:約1,670名(2013年3月末現在)

製造拠点:高萩技術センター、富山技術センター、焼津技術センター、高岡工場、西根工場、富士工場

・アステラスファーマテック 富士工場

所在地:静岡県富士市中河原88

敷地面積:96,506㎡

建築面積:57,789㎡

従業員数:370名(2013年3月末現在)

生産剤型:錠剤、カプセル剤、散剤、顆粒剤、注射剤

生産実績:錠剤 約20億錠、注射剤 約500万本(2013年3月期)

5. 今後の見通し

本件による当社の2014年3月期の連結業績への影響については現段階では発生しない見込みですが、来期以降の業績に貢献する見通しです。今後、変更が生じた場合には速やかに公表致します。

以上